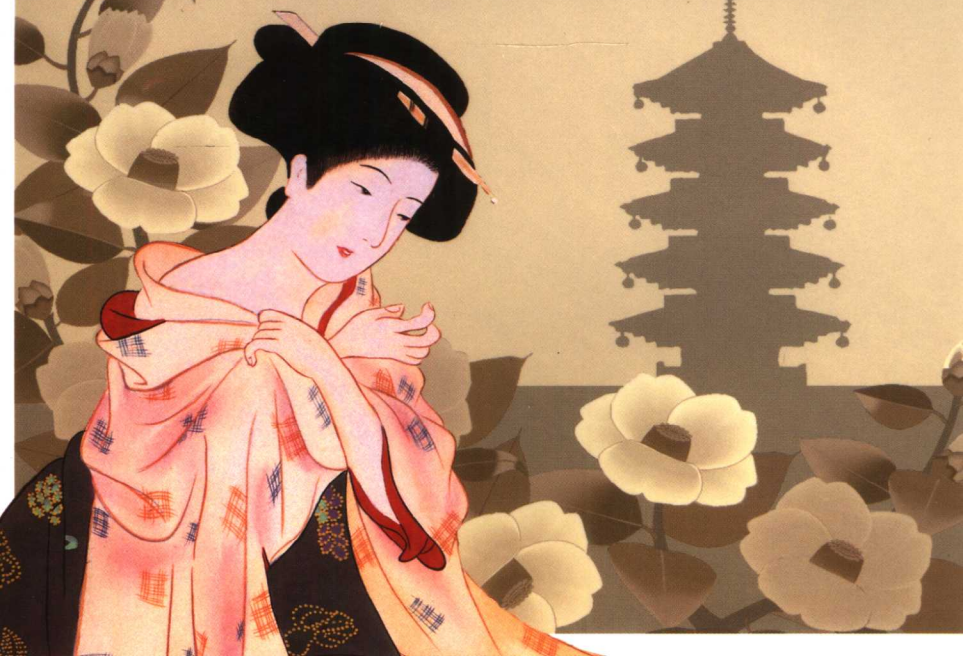


● 高等学校日语教材

日本 风俗习惯

● 马兰英 臧运发 编著

大连理工大学出版社



高等学校日语教材

日本风俗习惯

马兰英 臧运发 编著

大连理工大学出版社

© 马兰英, 臧运发 2006

图书在版编目(CIP)数据

日本风俗习惯 / 马兰英, 臧运发编著. —大连: 大连理工大学出版社, 2006. 8

高等学校日语教材

ISBN 7-5611-3289-1

I. 日… II. ①马…②臧… III. 风俗习惯—日本—高等学校—教材 IV. K893.13

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 087698 号

大连理工大学出版社出版

地址: 大连市软件园路 80 号 邮政编码: 116023

发行: 0411-84708842 邮购: 0411-84703636 传真: 0411-84701466

E-mail: dutp@dutp.cn URL: <http://www.dutp.cn>

大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸: 140mm × 203mm 印张: 15.75 字数: 388 千字

印数: 1 ~ 4 000

2006 年 8 月第 1 版

2006 年 8 月第 1 次印刷

责任编辑: 宋锦绣

责任校对: 相卓 戴剑 张璠

封面设计: 孙宝福

定 价: 28.00 元



前 言

《日本风俗习惯》介绍了日本人的生活习惯、礼节礼貌、一年中的节日、婚丧嫁娶等方面的知识，适合于掌握了语言基础知识、有一定阅读能力的日语学习者使用，可以加深对日本和日本人的认识，扩大知识面，丰富相关词汇。

该书由 10 个单元构成，分别介绍了日本人的新年活动、一年中的祭祀、祝福孩子成长的节日、生活中的庆典、婚事、丧事、衣食住行方面的习惯、礼节礼貌、迷信、禁忌等内容。每个单元由多篇短文组成，每篇短文介绍 1 个事项，如第 1 单元“新年”由 21 篇短文组成，介绍日本人过新年的各种活动，如：新年装饰、大扫除、年夜饭、压岁钱、拜年等等。每篇短文后配有详细的单词注释，注释中除单词的意义之外，还补充一些字典上查不到的知识，如与该单词有关的风俗习惯的来源、变迁、现状等。单词注释之后是补充内容，介绍一些正文里没有出现的知识，如奇闻轶事、与中国风俗习惯的关系或区别等。

该教材在编写过程中，参考了大量的日文原版书籍，资料新，趣味性强。由于风俗习惯的知识涉及面广，内容庞杂，词汇难懂，所以编写时尤其注重了趣味性，选择日语学习者日常学习中经常碰到的项目，以及与中国风俗习惯不同的项目进行讲解，力图通俗易懂。另外，在编写过程中征求了本院本科学生的意见，根据学生提出的意见安排章节的构成和难易程度。





书中的短文取自以下参考书，经过编者的修改，文中不再一一注明，在此一并对作者表示感谢。

冠婚葬祭すべてがわかる事典	山崎陽子	西東社	1992
日本の風習	武光誠	青春出版社	1993
衣食住に見る日本人の精神構造	樋口清一	ごま書房	1997
現代冠婚葬祭事典	三省堂企画編集部	三省堂	1997
民俗学がわかる事典	新谷尚紀	日本実業出版社	2000
冠婚葬祭ワザあり事典		PHP研究所	2002
日からウロコの民俗学	橋本裕之	PHPエディターズグループ	2002
くらしの雑学帳	持田克己	講談社	2002
日本人のしきたり	飯倉晴武	青春出版社	2003

由于编者水平有限，书中难免有错误和不当之处，敬请各位读者给予批评指正。





目 录

第一章 正月行事

1. お正月	2
2. 煤払い	6
3. 門松	9
4. 注連飾り	13
5. 大晦日	16
6. 年越しそば	20
7. 鏡餅	23
8. お正月のお供え	26
9. 若水	29
10. お屠蘇	31
11. おせち料理	34
12. 雑煮	37
13. 初詣で	40
14. 年始まわり	44
15. お年玉	47
16. 初夢	50
17. 書初め	54
18. 七草粥	56
19. 鏡開き	59
20. 小正月	63
21. 藪入り	66





第二章 年中行事

1. 節分	72
2. 初午祭り	76
3. ひな祭り	80
4. 彼岸	84
5. 花祭り	87
6. 八十八夜	90
7. 端午の節句	92
8. 衣替え	98
9. 七夕	101
10. お盆	105
11. 土用の丑の日	111
12. 重陽の節句	114
13. お月見	117
14. 酉の市	120
15. 冬至	123

第三章 通過儀礼

1. 帯祝い	128
2. へその緒	131
3. お七夜	133
4. お宮参り	136
5. お食い初め	140
6. 初誕生祝い	143
7. 初節句	146
8. 七五三	149
9. 十三参り	154
10. 成人式	157
11. 長寿祝い	161





第四章 生活の中の祝い

1. 地鎮祭	166
2. 棟上式	169
3. 新築祝い	172
4. 入学・入園の祝い	174
5. 卒業・就職の祝い	177
6. 結婚記念日	180
7. 栄転と退職	183
8. 受賞・叙勲の祝い	186
9. 快気祝い	190

第五章 結婚

1. 婚姻	194
2. 見合い	198
3. 釣書	202
4. 仲人	206
5. 結納	210
6. 結納で揃えるもの	214
7. 結婚式	218
8. 神前結婚式の順序	222
9. 新郎新婦の衣装	227
10. 角隠し	230
11. 披露宴	233
12. お色直し	237
13. 引出物	239
14. 里帰り	243
15. 仏前結婚式	245

第六章 葬儀

1. 葬儀に備えて	250
-----------	-----





2. 末期の水	252
3. 死装束	254
4. 北枕	257
5. 戒名	261
6. 位牌	265
7. 納棺	268
8. 喪主と世話役	270
9. 通夜	273
10. 葬儀と告別式	277
11. 焼香	281
12. 香典	284
13. 喪服	287
14. 出棺	290
15. 火葬	293
16. 収骨	296
17. 喪中と忌中	299
18. 法要	302
19. 精進落とし	305

第七章 衣食住

1. 着物と感情表現	308
2. 留袖	312
3. 家紋	316
4. 禁色	320
5. 鉢巻き	324
6. 足袋	328
7. てんぷら	331
8. すし	334
9. 尾頭付き料理	338





10. お赤飯	342
11. 畳	345
12. 床の間	349
13. 大黒柱	353
14. 鬼瓦	357
15. 格子戸	361

第八章 縁起

1. 招き猫	366
2. 絵馬	370
3. おみくじ	373
4. 鈴の音とお守り	378
5. 暖簾	381
6. 達磨	384
7. 七福神	387
8. 鳥居	391
9. 玉砂利と狛犬	394
10. 神輿	398
11. 神棚	401
12. 六曜	404
13. 厄年	407
14. 鬼門	410
15. 手締め	413
16. 塩と米糠	417

第九章 慣習

1. お辞儀	422
2. 正座	425
3. 上座と下座	428
4. 風呂	431



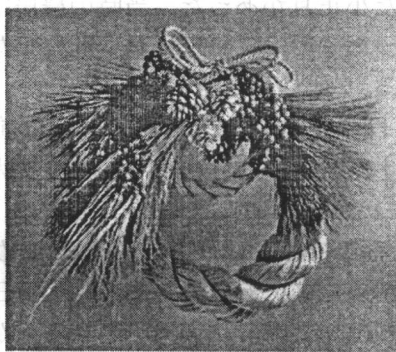
5. 中元	435
6. 歳暮	438
7. 表書き	440
8. 水引	443
9. のし	446
10. 年賀状と暑中見舞い	448
11. 土産と餞別	452
12. 名刺	455
13. 手紙の頭語と結語	458
14. 表書きと裏書き	464

第十章 禁忌

1. 生活の中の予兆と禁忌	468
2. 畳の縁を踏んではいけない	471
3. 箸から箸へ食べ物を渡してはいけない	474
4. 丑の刻参りは人に見られてはいけない	477
5. 霊柩車を見たら親指を隠す	480
6. 妊婦は葬式に出てはいけない	483
7. 昔、三月の結婚がタブーとされた	485
8. 忌み言葉	487



第一章
正月行事





1. お正月

「一年の計は元旦にあり」などというように、一年の節目として、日本人は正月をことのほか大切にしてきた。正月には年神様としがみさまという新年の神様が各家庭に降りてくると考えられ、その年の幸運を授けてもらうために、さまざまな習慣が定着した。

年月の流れとともに、正月に行なわれる行事がしだいに簡略化されつつある。年賀状を出し、初詣でにでかける。お飾りをつけ、おせち料理を神棚に供える。現在では、せいぜいこの程度の祝い方ですます人が多い。

しかし、江戸時代の農村では、正月は十二月十三日の煤払いすすはらいから、一月のどんど焼きまで一カ月あまり続く大がかりな祝い事であった。しかも、一月十五日には、元旦と同じくらい重んじられた小正月があった。当時の農民は、冬にほとんど仕事がなかったので、これだけ長い間にわたって神祭りができたのである。

十二月十三日の煤払いのあと、二十三日前後に松飾りをこしらえ、二十五日頃餅つきをする。そして大晦日に年越しのごちそうをつくり、年越しそばを食べる。

元旦に訪れる年神様という神を迎えるために、これだけの期間、身を清めたのである。いまでは大晦日の前日か前々日にお飾りをつけ、大晦日に大掃除をする人が多い。元旦の



前に家をきれいにするものだが、いまでは、これが煤払いと呼ばれることはほとんどない。また、いまの都会の人はたいてい餅は買ってすます。

元旦には、主人が朝一番に水を汲む若水汲みのあと、お屠蘇を飲み、初詣でをする。二日、三日はお年始回りで、二日の夜の夢がその年の吉凶を占う初夢になる。二日の初荷、書初めから仕事始めにつながる行事が始まる。今では四日に官庁ご用始めと取引所初立ち会いが行なわれる。

六日は消防出初め式、七日に七草粥を祝う。ついで、十一日の鏡開き、十四日のどんど焼きと、正月を終える行事が続くのである。



注释

年神様（としがみさま）：守护五谷的神，保佑每年五谷丰收的神。

初詣で（はつもうで）：新年里首次参拜神社。

おせち料理（お節りょうり）：新年或节日里做的年节菜、节日食品。

神棚（かみだな）：神龕，摆在家庭里的小型神社，用于祭祀日本原有的神以及与佛教折衷的神。

江戸時代（えどじだい）：江戸时代，从1603年德川家康在江戸设置幕府开始，至1867年把政权交还朝廷为止，也称德川时代。

煤払い（すすはらい）：新年之前的大扫除。以前日本农家在房间里挖地炉用于做饭和取暖，烧木柴，所以房间的顶棚、角落里会有黑灰，称为“煤”，“煤払い”就是在新年到来之



前将这些灰尘打扫干净。

どんど焼き (どんどやき)：小正月（1月15日）在村口举行的焚烧仪式，将过新年时使用的门松、竹子、稻草绳等烧掉。

小正月 (こしょうがつ)：与大正月对应的说法，大正月指1月1日元旦，小正月指1月14日~16日，也称为小年。

松飾り (まつかざり)：新年的时候装饰在家门口的松树，即门松。

餅 (もち) つきをする：捣年糕。“餅 (もち)”，即年糕，将糯米蒸熟捣碎后做成，用于新年、节日以及各种喜事。

大晦日 (おおみそか)：一年中的最后一天，大年夜，即12月31日夜。“晦日”也写作“三十日”，指每个月的最后一天。

年越しそば (としこし蕎麦)：新年前夜吃的荞麦面条，有长寿的含义。

若水 (わかみず)：元旦早晨打的第一桶水，据说可以去除一年的晦气、邪气。

お屠蘇 (おとそ)：元旦早晨全家人聚在一起，为祝贺新年、祈求家人身体健康喝的药酒。

年始回り (ねんしまわり)：拜年，新年伊始到亲戚、上司、朋友家问好的活动。

初夢 (はつゆめ)：元旦夜里做的梦，也有人认为是1月2日晚上做的梦。日本人有根据新年里做的第一次梦来预测自己一年运势的习惯。

初荷 (はつに)：1月2日批发商用马、牛驮着货物送货上门，作为新年里的第一次买卖。

書初め (かきぞめ)：新年里第一次用毛笔写字的仪式，书写自己在新年里的抱负和目标。1月2日举行。



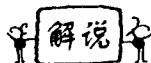
ご用始め（ごようはじめ）：指新年假期结束后政府各个机关第一天办公，一般是1月4日。

初立ち会い（はつたちあい）：1月4日交易所第一次开盘。

出初め式（でぞめしき）：新年里消防员第一次集合，举行消防演习的活动，1月6日举行。

七草粥（ななくさがゆ）：七草粥，1月7日吃的七种野菜做的粥。

鏡開き（かがみびらき）：1月11日把新年上供用的年糕打碎，煮成汤吃掉的仪式。



在日本，新年一般指1月1日至3日的三天时间，也叫做“三が日（さんがにち）”，是日本人非常重视的一个节日，相当于中国的春节。新年之前人们要做很多准备工作，如大扫除、装饰房间、购置新年用品；节日期间政府机关、学校要放假，人们要参拜神社、看新年日出、走亲访友互致问候；新年假期结束，开始工作、学习的时候也要举行很多仪式，以期在新的一年里有一个好的开始。

现在的“お正月”基本上已经固定为1月1日，但明治时代以前一般把旧历的1月1日叫做“お正月”。明治6年（1873）明治政府作为近代化政策之一，采用了阳历，即新历，很多按旧历日期进行的节日不得不改为新历的日期。一年当中最重要的两个节日新年和盂兰盆节，日期也由旧历的1月1日、7月15日分别改为新历的1月1日、7月15日，这样就比原来的日期早了一个月左右。在农村很多农活都是依照旧历进行的，新历新年的时候一年的农活还没有完全结束，所以即使政策上把日期改为了新历，但有的地方习惯上还是过旧历新年。



2. 煤 払 い

昔の正月の行事は、十二月十三日の煤払いから始まった。昔はかまどで薪を燃やしていたので、家じゅうに煤がついた。そこで、ふだん掃除しない天井まできれいに落として年神を迎えようと、煤払いを行なうようになった。

江戸時代には、竹竿の先に藁をつけた煤払い専用の道具が使われていた。これは「煤男^{すすおとこ}」とか「梵天様^{ぼんてん}」と呼ばれ、使ったあとも注連縄を張って一月十四日のどんど焼きまで保管した。

江戸の町人は、「煤男」を売り歩く声で正月の訪れを感じたという。煤払いは一種の穢れ落しの行事であった。知らず知らずに家のなかにたまった、小動物の死体などの穢れたものを捨てるのである。神聖な場所とされる神社仏閣では、いまでも大がかりな煤払いが行なわれている。

江戸の人々は、体じゅうを真っ黒にして煤払いを行なったらしい。「取次^{とりつぎ}に出る顔のない十三日」という川柳がある。煤払いを行なう十三日には汚れきった顔をしているので、とても客の前に出ていけないというのである。